

第1回 堂面第二公園ワークショップ新聞

□8月5日(日)辻堂市民センターにて

8月5日(日曜日)、辻堂市民センターにて「第1回 堂面第二公園ワークショップ」が開催されました。

事前に申し込みをされた13名の市民の皆さんと行政のスタッフにより、堂面第二公園の今後の計画について話し合いを行いました。その結果を、ワークショップや公園の情報を交えつつ、ご報告いたします。

ワークショップについて

1. ワークショップを開催する意味

ワークショップ:公園を利用する近隣の方々が集まって公園の計画や使い方などを決めていく会合の事を言います。計画地を取巻く条件を踏まえ、市民・行政が協力して計画を進めます。

2. ワークショップのルール

- ・住民の代表・市民の代表として話をして下さい。
- ・意見の違いを好き嫌いで判断せず別の立場でも考え、意見を述べて下さい。
- ・プランをまとめるため建設的な考え方で意見を述べて下さい。
- ・参加者全体の共通認識を得るため、積極的に議論をして下さい。

3. ワークショップにおける参加者の役割

●住民

- ・住民代表の意識と活発な議論と計画の立案。
- ・計画実現のための問題解決。
- ・将来の維持管理を想定した、行政との継続的な協力関係の構築。

●行政

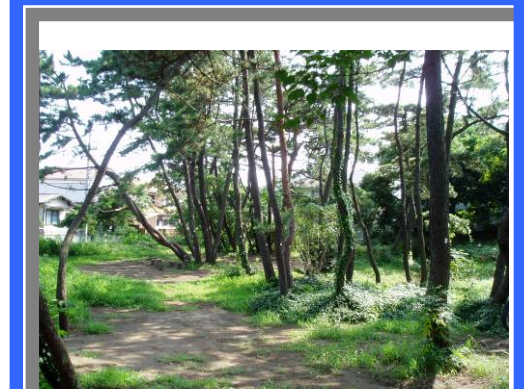
- ・計画、建設実行のタイムスケジュール管理。
- ・法規制の解説。実行可能性の明確化。
- ・実現化のための効果的方法のアドバイス。

4. ワークショップで集まって何をするのか

- ・運動ができる公園、ゆっくり休める公園、遊びが中心の公園、今の風景は残すか？広場は？すべり台を置きたい、植物は何を植えようかななどをみんなです話し合いながら決めていきます。

計画地の与条件

- ・公園種別 街区公園（堂面第二公園）
- ・面積：約 2,000 m²
- ・所在地：辻堂太平台 1 丁目 5 番地先
- ・公園区域は今まで「緑の広場第32号」として皆さんに開放されていたところです。
- ・敷地南西側は昔ながらの松林が残されていて、北東側は遊具のある開放的な広場となっています。
- ・南東側は 4.5mの道路に面していて、松林は道路と同じ高さ、広場は約 1m高くなっていて、北西側に 2m程度高くなっています。



堂面第二公園現況平面図



第1回ワークショップの進行表

ー当日の流れー

1. 課長あいさつ・担当の紹介
2. 公園計画の概要について
3. ワークショップの方法、進め方について
4. 計画を進めるための条件について
5. 参加できない方、申し込み時に頂いた意見等について
6. 学生公開アイデアコンペの紹介
ー休憩ー
7. 参加者自己紹介と計画地への思い
8. グループワーク①（公園への要望）
9. グループワーク②（まとめ）
10. あいさつ（今後の予定について）



ー堂面第二公園学生公開アイデアコンペの紹介ー

（社）日本造園学会では、今回ワークショップを実施する堂面第二公園を題材に、学生を対象とした街区公園・まちづくりに関する公開アイデアコンペを実施しました。

このコンペは、実際に「街区公園」として整備される予定の土地およびその周辺地域を事例とした具体提案を求め、実習・演習等で培われた計画・設計、プレゼンテーション技術の一層の向上を図ることを主な目的として実施したものです。

平成19年4月30日まで受付を行った結果、全国から46作品の応募があり、厳選なる審査により、最優秀賞一点、優秀賞3点他が選ばれ、5月19日に全国大会の会場、日本大学湘南キャンパスにて表彰が行われました。

ワークショップでは、地域の皆さんによる、計画がなにもない状態から公園計画を作り上げていくことを基本としておりますが、全国の学生のみなさんが一生懸命この地域のことを考え、デザインした作品ですので、参考ではありますが、皆さんの公園づくりに活かしていただけたらと思い、ワークショップの場を借りて、最優秀賞・藤沢市長賞の紹介及び優秀賞以下計10作品をワークショップ会場で展示させていただきました。

ここでは、受賞作品を代表して、最優秀賞・藤沢市長賞に選ばれた作品をご紹介します。

ー最優秀賞・藤沢市長賞の紹介ー

「共育(ともそだて)」～共に育てる人・まち・みどり～

コンセプト「共育(ともそだて)」とは、行政と住民が共に育てることにより、魅力的で愛着のある公園を創造することを意味している。
あえて行政が公園を完成させるのではなく、住民の手によって時代とともに育てていく公園を提案する。そのため、完成した公園をそのままの姿で残す「維持管理」を発展させた、公園を利用し遊ぶ人たちが変化する公園を楽しむながらつくる「育成管理」を行う。



「共育(ともそだて)」～共に育てる人・まち・みどり～



⑥ツリーハウス広場(ものづくり場)
マツ林を活かし、ツリーハウスを設置する。ツリーハウスは今後も手を加えられるよう簡単なつくりのものとする。ツリーハウスに登って、子どもたちがいつもと違う視点で公園や街並みを眺めたりする。テーブルやイスを置いて、作業のできるスペースをつくり、地域の大人や学生などと一緒に遊具などをつくることできるようにする。

②クレマチス属植物によるフェンス緑化
公園と私的空間を隔てるフェンスを、クレマチス属の植物を用いて緑化し、緩衝作用を持たせた。クレマチス属植物は登はん性を持ち、その美しい花と芳香性により、多角的に楽しめるフェンス緑化を実現する事ができる。品種の組み合わせによっては、1年中花を楽しめる緑化が可能となる。写真は秋のイメージである。

③花壇・菜園
花壇や菜園を設け、公園を整備する際に地域の住民が自分たちで花などを植え、管理を行う。周辺地域にはよく手入れされた庭が多いため、公園の緑や花も、その知識や経験を活かし、皆で育成管理を行うことで、公園の緑や花も自分たちのものという意識が芽生える。花や野菜の種付けや手入れ、収穫など地域住民で行い、交流を深める。

④芝生広場
現在は公園全体が砂地となっているが、みどりを増やすために公園の東側を芝生広場とする。子どもたちが走り回って遊ぶときに芝生が緑のクッションの役割を果たし、ケガの心配が少ないといえる。

公園への思い・要望

ー公園への要望ー

実際の作業にあたっては、参加者を2つのグループ（A班・B班）に分け、各で意見を出し合っていました。
その結果を8つのキーワードに分類して整理しました。

ーA班ー

「あそび」

遊具を厳選（必要最小限に） すべり台（大きなものも） ブランコ 幼児向け遊具 鉄棒 砂場（水遊びができるように水道の近くに）

「運動」

自然の木をつかった運動コーナー 足裏運動用の足踏みスペース 自然の木で平均台

「コミュニケーション」

昔の子どもの関係を戻す場所 年齢を超えた（交流ができるように）

「安心・安全」

バリアフリー 現在ある入口の階段をスロープに 段差の少ないならかな歩道 井戸の設置 看板をつくる（公園名、注意事項等を表示する）（見通しのため）松の木の枝を切る、松の木以外の小さな樹木は全て切る 周囲の住宅からの監視・通報等の確立 非常用（施設）の確保（消防用水・便所） 防雷設備の設置 夜間の照明（最小限で必要）

「みどり」

松林 松林の保存 自然な松林を残す 桜 日本の植物 砂場には海を感じる植物を 花壇 季節の花 季節を感じる草木を植える 子ども（幼児）と老人が自由に植物を世話できる 砂場の方への芝生必要 芝生広場 芝を植える 一面芝にする 野原 花壇は不要

「自然観察」

上から眺める立見台を松林に建てる（子供用） 自然を残す人工物の排除

「休憩」

風よけのエリアをつくる 雨やどりをする場所 屋根のある場所（軽食をとれるような テーブル・イス） さらさらした砂（白い、つぶのあらいもの。水はけのよいもの） 砂場（ブランコ）を芝生に 木陰のベンチ設置 ベンチの設置 丸太のベンチ

「その他」

自然の材料（マテリアル）を使う 最終的に見通しよく、健康的で子どもの遊べる公園にする 散歩の犬の放し飼い 糞尿禁止の看板 犬の放し飼いは大変危険ですので禁止という看板 犬の排泄物は衛生上各自処理するようにという表示 ペットのエリアを制限 ふんなど衛生面を考えて欲しい 管理の簡単なもの 管理は市が行い、勝手なことができないようにして欲しい 歴史上の事柄、「堂面」の名称のいわれの表示 予算があるのだから使い切るというお役所的発想は反対です 水道の設置



ーB班ー

「あそび」

遊具はいらない 遊具は置かない方向 遊具はしっかりしたものを

「運動」

砂地は残して欲しい

「コミュニケーション」

早朝か夜間なら犬も歩かせてあげたい（糞尿の始末はきちんと）

「安心・安全」

駐輪場 自転車利用のルールづくり 自転車利用の制限 自転車置き場に1台ずつの区画ラインを書く 西側道路の車進入制限（時間帯で） 緊急時の連絡手段（非常ベルのようなものの設置） 入口に車止め 照明の設置

「みどり」

現在ある松林をそのまま残す 現状の松林を残す方向性 松の木の手入れをして欲しい 定期的に植林をする 植樹は成長することを考えて隣接区域から極力離す 南東（道路）フェンスに並行に芝生を2～3m幅に砂場部分は一面に芝を植える 現在の砂地の所は一部でもよいので芝生にして欲しい 芝生とかにせず自然がよい

「自然観察」

草はそのまま（スズムシやコオロギがくる） 池が欲しい（トンボやヤゴがいる） 浅瀬の池をつくる 松林に歩道を（やたらに歩くので地が固くなっている）

「休憩」

「その他」

道路に掲示板を1カ所設置したい 人工的な建造物は極力少なくする 余りきれいな公園であるより、現状を整備するという位が良い 犬の糞の放置、タバコポイ捨てに関連して、条例等も含めて看板を設置して欲しい 水道の設置

ー参加者の思いー

当日参加していただいた方達の公園への思いです。

- ・お年寄りと小さい子どもみんなが集える・休める公園になったらうれしい。
- ・今のみどりの広場にある松を是非残したい。
- ・ここが公園になったらと長年思っていた夢がかなった。防災に適應できるように井戸や水道をきちんとして欲しい。
- ・今、どんどん松がなくなっているなか、公園の松を残すために参加した。
- ・松が枯れない処置をして欲しい。
- ・多くの人が使いやすい憩いの場にしたい。
- ・松をできるだけ残し、上物はごちゃごちゃさせたくない。犬の放し飼いも問題
- ・松を残したい。ペットの問題などを改善していきたい。
- ・幅広い世代に過ごしやすい公園にしたい。
- ・公園で子どもを遊ばせたい。木陰を活かした空間にしたい。ペットの問題。
- ・昔は松がどこにでもあった。松林を大事に、季節の花も大事にしていきたい。
- ・下を芝生にして、見通しのきく、健康的な公園にしたい。防犯、火事対策を。

ーワークショップ開催にあたり事前に頂いた意見についてー

参加できなかった人や、申し込み時にいただいた意見を抜粋して紹介します。

- ・堂面第二公園は貴重な松林がのこされている数少ない場所です。出来れば余り手をかけずに、自然のままに松林としていつまでも残しておきたい。
- ・予算に合わせた発案をゼロから提案できるのでしょうか？貴部署でどの段階まで考えているのでしょうか？
- ・近隣住民若しくは来訪者のためになるような、例えば緊急時に活用できる井戸などを掘ることはできるのでしょうか？
- ・表面上入口、出口の、看板、利用規則など決まりごとばかりを掲示するだけならば、現状のままでOKと考えます。
- ・極力シンプルに！防災井戸と水道の設置、他は不要。
- ・犬の放し飼いは非常に危険です。是非表示してほしい。
- ・なるべく現状の保存を望みます。
- ・地元のにとって松林の存在そのものが愛される存在なので、子どもの遊具を設置する児童公園にはしないでほしいと思います。
- ・現在ある松を大事にして、一年の四季を感じられる、心がなごむ公園にして欲しい。

頂いたご意見につきましては、2005 年 11 月 12 日に地元の方々を対象に実施しました説明会時に頂いたご意見と共に、ワークショップ内で紹介させていただきました。

ーワークショップ当日の様子ー



グループ内での活発な意見の出し合い



グループごとに出た意見の発表

第2回ワークショップのスケジュール

★第2回ワークショップについて

- ・計画のコンセプトの設定を行います。
- ・計画地の持つべき機能の設定を行います。
- ・スケール感の確認を行います。
- ・ゾーニング図を作成します。
- ・公園施設の配置計画を行います。

★次回開催：8月26日（日曜日）09:30 から 12:00
辻堂市民センター

堂面第二公園ワークショップ及びこの新聞の内容に関して、ご意見、ご質問等ございましたら、郵送、FAXまたはEメールにて下記担当までお願いいたします。

藤沢市 都市整備部 公園みどり課 計画・推進担当
〒251-8601 藤沢市 朝日町1-1
FAX: 0466-50-8421
Eメール: koen@city.fujisawa.kanagawa.jp
TEL: 0466-25-1111

